

「人生は出会いで決まる」*

水村 光義†

聖句

イエスはまた湖のほとりに出て行かれた。すると群衆がみな、みもとにやって来たので、彼らに教えられた。

イエスは、道を通りながら、アルパヨの子レビが収税所にすわっているのをご覧になって、「わたしについて来なさい」と言われた。すると彼は立ち上がって従った。

それから、イエスは、彼の家で食卓に着かれた。取税人や罪人たちも大ぜい、イエスや弟子たちといっしょに食卓に着いていた。こういう人たちが大ぜいいて、イエスに従っていたのである。

* 本稿は、二〇一二年五月一日（火）清泉礼拝堂にて行われたチャペルアワーの原稿である。

† MIZUMURA, Mitsuyoshi 日本伝道隊 津田キリスト教会牧師

説教

パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちといっしよに食事をしておられるのを見て、イエスの弟子たちにこう言った。「なぜ、あの人は取税人や罪人たちといっしよに食事をするのですか。」イエスはこれを聞いて、彼らにこう言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

(マルコによる福音書二章一三節―一七節 新改訳改訂第三版より)

今回の題名「人生は出会いで決まる」^①は、マルチン・ブーバーの言葉です。彼はイスラエルの哲学者で、その著書の中で、

「ひとりひとは、いまだかつてこの世に存在しなかった独自の存在である。したがって、自分にしか果たせない使命を持って、この世に存在しているのだ。もし同じ存在があったとしたら、この世に私が今いる必要はない」と言っています^②。

皆さん一人一人も神に愛され、とてもユニークな存在として造られています。そして、他の人では代用がきかない使命を持ってこの世に存在しているのです。そのような意味でも、自分の使命を知り、自分の存在価値と意義を知り、本来持っている能力や可能性が引き出される必要があります。残念ながら多くの人は、そのことが分からず、自分の才能も能力も発揮することなく人生を終えてしまっています。ブーバーが言うように、人生は誰と出会うかによって決まっています。出会いを通じて本当の自分自身を発見していくのです。みなさんが大学時代に出会う素晴らしい友達や先生からも大きな影響を受けるでしょう。また、本を通じての出会いも人生を変える可能性があります。今日のお話しは、取税人レビがイエス様に出会い、人生が180度大きく変えられたお話しです。どのぐらい大きく変えられたかという点、

彼はのちに聖書ではマタイ（神の賜物という意味）という名前で紹介されています。そうです、福音書の最初にある、マタイによる福音書の著者として出てきます。マタイによる福音書が歴史の中で、どれほど多くの人に良い影響を与え、神の国の拡大に貢献してきたかは測り知れませんが、今後もそうです。彼の人生はイエス様のそばにずっといたからこそ福音書が書いたことは確かなことです。私たちもイエス様と出会い共に歩むなら、本当に素晴らしい人生を過ごすことができるのです。では、まず聖書を見て行きましょう。

マルコの二・一四に

「イエスは、道を通りながら、アルパヨの子レビが収税所にすわっているのをご覧になって、『わたしについて来なさい』と言われた。すると彼は立ち上がって従った」

とあります。この時、収税所にすわっているレビを見てみましょう。目的や使命を持っている人の人生は常に前進していますが、それが分からない人は、座り込み（引きこもり）立ち上がることができないのです。彼も自分の十年後、二十年後を想像しても、素晴らしい人生を過ごしているとは夢にも思っていないかったと思います。今も多くの人が引きこもり、自分が神に愛されユニークで独自の使命を持った特別な存在だとは思っていません。レビは収税人ですが、一五節にあるように、当時はたいへん人から嫌われる職業で罪人の中に数えられていました。なぜなら収税人はローマ権力の手下として、税を取りたてて私腹を肥やす者として特に嫌われていましたし、異邦人とも多く接するのでユダヤ人には特に忌み嫌われていたからです。それだけに、周りはもちろん、自分自身も自分を卑下しただろうし、同じような価値観の仲間の世界に引きこもるしかなかったのです。類は友を呼びます。ますます同じような影響しか受けられず変わりようもなかったのです。

しかし、イエス様は収税所にすわっているレビをご覧になられて、「ついて来なさい」と招いてくださいました。もし、あなたなら、人から嫌われている人、さげすまれていてる人を見て、声をかけるでしょうか？ ましてや、その人を招いて一緒に食事をするでしょうか？ いったいイエス様の目にはレビはどのように映っていたのでしょうか。聖書には神が私たちを見る思いが書かれています。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」(イザヤ四三・四)。

この言葉は、驚きの言葉です。イエス様の目には、罪人のレビも愛の対象として自分の愛する息子のように見えていたのです。もちろん取税所にすわりこんでいる姿ではなく、彼の本来のあるべき姿・本当の姿を見てくださる方なのです。人は少しでも立派な人から目を留められ、声をかけられたらそれだけで天にものぼる気持ちになりますが、ましてや救い主であられるイエス様から声をかけられたのです。人の体は息が苦しくなると空気を欲するように、人の心は誰かに理解され、尊重されたいと欲しています。取税人のレビを理解し尊重しようと思う人は彼自身を含めて一人もいなかったのです。そのような彼がイエス様に出会い、声をかけてもらい、招かれた時の心の喜びはどれほどだったでしょうか。やがてレビは聖書の中で、マタイの福音書の著者として紹介されています。神にも人にも多大な貢献をする人に変えられます。そのはじめは、この時のイエス様との出会いだったのです。

私自身も大学時代にクリスチャンの友達を通じてイエス様に出会い、学校の教師になったのですが、二年で退職し献身をして神学校へ行きイエス様の愛と素晴らしさを伝える牧師になりました。イエス様との出会いはそれぞれですが、イエス様は今も生きておられ共に歩むなら、この方がどんなに素晴らしく偉大な方が分かります。従わずにおれなくなり、この方を伝えずにおれなくなるのです。

イエス様の招きに対して、彼は立ち上がり、従いました。従うとは、ただ立ち(断つ)上がるだけでなく、今までの価値観や生き方を断つ(捨てる)必要があります。生き方を変えることは言葉でいうほど簡単なことではありません。多くの人が生き方を変えようとしても変えることができず、分かっていても変えられないことに悩んでいます。どうしても、レビはすぐに従うことができたのでしょう。私自身のことを考えても、また牧会二十年を振り返っても、イエス様を信じて心を満たされ、悪い習慣から解放された人をたくさん見て来ましたが、そうです、イエス様との出会いの中で、レビの心に平安といのちが注がれたのです。みなさんも聖書を読むとき、祈るとき、チャペルで礼拝をしているときに、(イエス様に出会い)心の中が楽になり愛で満たされてくる経験をされたことはないでしょうか。

イエス様は聖書の中に預言されていた救い主であられ、私たちを愛して人間のすべての罪を負われて身代わりに十字

架刑にかかられた方です。預言の通りに三日目によりみがえられ今も信じる人を救って導いて下さる方なのです。

その圧倒的な愛と存在は、出会った人を次々に変えていきます。レビが立ちあがって従ってから、イエス様や弟子たちを家に招いて食事をするところから、それもたくさんの（仲間）の友達を招くところから、どれほど彼がイエス様に出会えたことが嬉しかったかが分かります。彼らの食事の風景を想像してみてください。嬉しくて、嬉しくてたまらない様子がうかがえます。なぜなら、パリサイ人や律法学者がその様子をみてねたんでいることからわかります。誰でも、イエス様を受け入れるときに、古い自分や罪の縄目や古い価値観を断つことができますのです。

取税人や罪びとたちを見下し、自分は神に熱心なものだと思っている宗教家（パリサイ人や律法学者）たちは、なぜイエス様が彼らと共に食事をするのか理解できないので直接イエス様に質問をしました。その答えから、イエス様が救い主としてこの地上に來られた理由が分かります。

「イエスはこれを聞いて、彼らにこう言われた。『医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために來たのです』」（一七節）。

この、同じ記事をルカは福音書の中で、

「レビという取税人に目を留めて、『わたしについて來なさい』と言われた。するとレビは、何もかも捨てて、立ちあがってイエスに従った。自分の家でイエスのためにおおぶるまい」

と書いています。レビにとって自分を支えているのは、名誉や自尊心でなくお金でした。人から嫌われても取税人はお金を儲けることはできました。そのお金も仕事も何もかも捨てて従ったのです。イエス様の救いと恵みは、この世のどんな宝よりも価値のあるものなのです。そのことが分かったから、何もかも捨てることができたのです。使命という言葉も、いのちを使うと書きます。たった一回きりの大切ないのちを使い果たしても惜しくないようなことが使命なのです。レビは、イエス様に出会い、病人が元気になるように、魂が元気になり、あまりにも嬉しくてすべてを捨ててイエス様に従い、最後に福音書を書き残す使命を全うしたのです。

人生は出会いで決まります。素晴らしい人と出会うなら、素晴らしい影響を受けるでしょう。悪い人と出会うなら、悪い影響を受けるでしょう。しかし、誰でもイエス様に出会うなら、あなたもレビのようにまったく新しい人に変えられます。イエス様は今も罪人を招いています。自分は正しい、自分は罪人ではない、自分はある人と比べてみただと思っているなら主に出会う可能性は少ないのです。出会っていても気づかないでしょう。しかし、レビのように自分は神様から離れて的外れな人生を歩んでいる、自分の使命や目的が分からないで迷っている者、すなわち罪人だと認めるなら、イエス様の声が聞こえてきます。「私について来なさい」と、なぜなら、イエス様は罪びとを招くために来られたからです。イエス様の誕生から二〇〇〇年が過ぎましたが、多くの人が今も生きておられるイエス様に出会い、人生が変えられてイエス様に従って世の中を変えて行きました。詳訳聖書ではこの箇所を、

「私の弟子になり、（私の仲間に加わって）私について来なさい。すると彼は、立ち上がった、弟子として彼に加わった（彼の仲間になった）」

と書いています。人は従う者に似てきますから、あなたがイエス様に従うなら、イエス様に似ていくのです。四国学院に在学される中で、イエス様とイエス様を信じる人たちと出会い、あなたも本来のあなたとなり、神様から与えられた使命の道を歩まれますように切に願っています。最後に、イエス様の素晴らしい約束の言葉を紹介して終わります。ヨハネの福音書の八章一二節に、

「私は世の光です、私に従う者は、決してやみの中を歩むことなく、いのちの光を持つのです」。

あなたもマタイのようにイエス様に出会い、いのちの光をもつ人生へと導かれますように、祝福をいのりつつ。

注

(1) 「すべて真の生とは出会いである」（植田訳『我と汝・対話』岩波文庫一九七九年、一九頁）、「すべての真実なる生とは、まさに出会いである」（野口訳『孤独と愛』創文社一九六六年、一七頁）が、おそらくオリジナルである

う（編集者注）。

（2）バーバーは、『祈りと教え』の中で、ハシディズムの賢者の一人、ズロチヨフ（地名）のマギド（説教師）の言葉として集録している（編集者注）。

「自分のような性質の者は世界中でただ一人なのだ、ということを知りかつ熟慮することは、イスラエルの全ての者の義務である、彼と等しい者は未だかつてこの世になかったのである、というのは、もしも彼と等しい者がすでにこの世にいたとするならば、彼はこの世にいる必要がないであろうから。各個人は、世界の中で一個の新しいものである、そして彼は彼の性質をこの世において完全にしなければならぬ。なぜなら、実に、このことが行われないということ、それはつまり、メシアの到来を遅らせることだから」（板倉訳、理想社一九六六年、五一頁）。